

2025 年度 変革を駆動する先端物理・数学プログラム (FoPM)

国外連携機関長期研修 募集要項

1. 趣旨

変革を駆動する先端物理・数学プログラム (FoPM) では、卓越した専門性を備えたプログラム生のポテンシャルを最大化し、世界的な競争力のある博士人材の育成を行うため、FoPM 生の国外連携機関長期研修への参加をプログラム修了の要件としている。本要項はその募集について必要な事項を定めるものである。

2. 応募資格

FoPM 生のうち、参加時に修士課程 2 年次から博士後期課程 2 年次の学生。採択回数は 1 回限りとし、2 回目以降の参加は自己負担となる。

(注) 参加時期が春入学者は修士課程 2 年次の 1 月以降、秋入学者は修士課程 2 年次の 7 月以降の場合に応募可能。

3. 応募内容及び期間

国外連携機関長期研修として認められる内容及び期間は以下のとおりとする。

- 1) 国外の大学・研究機関における共同研究を中心とする派遣 (2 週間～3 ヶ月程度。滞在中、国際会議等への出席も可能だが、国際会議出席のみの派遣は不可。)
- 2) 国外の企業インターンシップ (2 週間～3 ヶ月程度)

(注) 原則国外での活動のみとするが、国内の方が有意義な活動ができると認められる場合は、国内での活動も認める。別紙様式 2 研究計画書に国内での活動の方が適当である理由を記載すること。また、認められる内容及び期間については、上記における国外を国内と読替えること。

4. 採用予定者数

40 名程度

(注) 本プログラムでの派遣に際して、派遣先やその他の支援機関等から経済的支援を受ける場合には、上記の限りではない。

5. 支給経費

実費支給となる。本プログラムから支給可能となる経費は以下 1)、2) のみである。

1) 交通費

往復航空賃は合理的かつ経済的なエコノミーのディスカウント運賃。最も低廉な航空運賃とするため、例えば、直行便よりも価格が低い場合には乗換便を適宜利用すること。バス及び電車については同一市内での交通費は支給されないので注意すること。

2) 宿泊費

安全を考慮した上でできるだけ廉価に抑えること。90 日までを上限とする（機中泊は除く。）また、当プログラムの経費で参加する場合、日当は支給しない。

※ 日当、旅券の交付手数料、査証手数料、予防注射料、旅行傷害保険料、海外旅行保険料は補助金では執行できないが、運営費や寄付金などの使途の決まっていない予算では執行可能となる。それらの予算担当者に支給可能か必ず確認すること。

注意事項

- ・本プログラムでの派遣に際して、派遣先やその他の支援機関等から経済的支援を受ける場合には、その支援の対象分について本プログラムでは不支給となる。
- ・本プログラムの経費にて参加する場合、2026 年 3 月 31 日までに日本に帰国しているものを対象とする。
- ・金額によっては全額支給できない場合がある。

6. 応募手続き

申請者は、以下の書類を PDF に変換し、期日までに「11. 提出先」に提出すること。

プログラムの修了要件として認められるには、事前申請が必要となる。

- ・申請書 (別紙様式 1)
 - ・研究計画書 (別紙様式 2)
 - ・渡航計画書 (別紙様式 3) ※
 - ・指導教員の推薦書 (別紙様式 4) ※
 - ・受入先による受入の承諾が得られていることがわかる文書（メールでのやりとりでも可）※
 - ・必要費用の概算（別紙様式 3）に対応する往復交通費と宿泊費の算出根拠書類※
- (※) 本プログラムの経費以外で参加する場合は提出不要

7. 応募書類提出締切及び結果通知

国外連携機関長期研修への 参加開始時期	応募書類提出締切	結果通知
1 期（2025 年 4 月～6 月ま での間に開始）	2025 年 1 月 31 日（金） 17:00	2025 年 2 月中
2 期（2025 年 7 月～9 月 までの間に開始）	2025 年 5 月 30 日（金） 17:00	2025 年 6 月中
3 期（2025 年 10 月～12 月までの間に開始）	2025 年 8 月 29 日（金） 17:00	2025 年 9 月中
4 期（2026 年 1 月～3 月 までの間に開始）	2025 年 11 月 28 日（金） 17:00	2025 年 12 月中

8. 選考

FoPM 委員会で行う。

9. 結果

メールで報告する。その際、旅費申請に必要なコードを知らせるので、各研究室の秘書の方、または出張申請の対応可能な教職員にコードと日程等を伝えること。担当者が不明な場合、指導教員の出張申請を行う方を確認すること。

委員会承認後の旅程、旅費に大幅な変更があった場合は事前に事務局まで連絡すること。

10. 報告書の提出

終了後 2 週間以内に報告書（別紙様式 5）に記入し、PDF にて「11. 提出先」に提出すること。報告書は FoPM のウェブサイトで公開する。

11. 提出先

東京大学大学院理学系研究科学務課内国際卓越大学院事務局
wings.s@gs.mail.u-tokyo.ac.jp

12. その他

国外の大学・研究機関・企業で共同研究、インターンシップを行う場合は、期間・実施内容にあわせた保険（留学保険等）に自身で加入の上、渡航すること。

なお、理学系研究科の学生については、[理学系研究科学務課（daigakuin.s@gs.mail.u-tokyo.ac.jp）](mailto:daigakuin.s@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)を通じて「学研災付帯海外留学保険」に加入することも可能である。**出発の3週間前には必ず申請を行うこと。**それ以外の研究科については各専攻事務室に問い合わせて確認すること。

また、理学系研究科の学生は海外渡航申請書を提出すること (<https://www.s.u-tokyo.ac.jp/ja/current/notification-forms-grad.html>)。

渡航期間が2ヶ月またはそれ以上の場合は、指導教員が意見書をオンラインで入力した上で、**1ヶ月前には研究科教育会議の承認を受けることが必要なので注意すること。**また、留学生が渡航する場合は事前に[学務課国際チーム（intl.s@gs.mail.u-tokyo.ac.jp）](mailto:intl.s@gs.mail.u-tokyo.ac.jp)にも連絡すること。海外渡航についての詳細は理学系研究科の学生は「理学系研究科履修案内」に記載されている。工学系研究科、数理科学研究科の学生はそれぞれの研究科の指示に従うこと。研究での渡航の場合、受入先機関によりビザを申請するよう指示されることがある。取得までに数か月を要することもある為、早目に渡航先との調整を行うこと。

2025 年 1 月